

矢板市総合教育会議

- (1) タブレット、AIを利用した効果的な教育方法について
- (2) 部活動の地域移行について



2024/12/16

生涯学習館 研修室I

本日の内容

日時：令和6年12月16日（月）16時～17時

場所：生涯学習館 研修室1

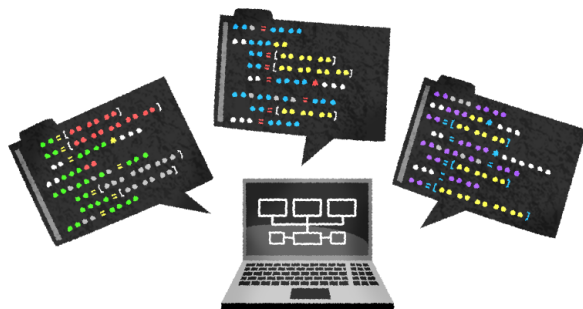
参加者：市長・教育長・教育委員

総合政策課・教育総務課・生涯学習課

議題の順序：

- (1) タブレット、AIを利用した効果的な教育方法について
- (2) 部活動の地域移行について

タブレット、AIを利用した 効果的な教育方法について



矢板市総合教育会議
生涯学習館 研修室 I



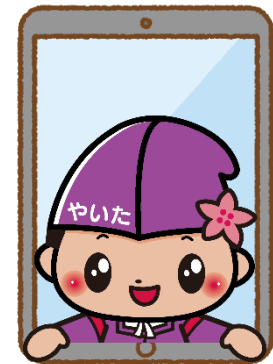
タブレット、AIを利用した 効果的な教育方法について

(1) 子どもたちを取り巻く環境

(2) これからの時代に必要な力とは

(3) 矢板市立小中学校の現在

(4) 矢板市のこれから



今までの時代は？

狩猟社会 (Society 1.0)

原始・縄文時代

農耕社会 (Society 2.0)

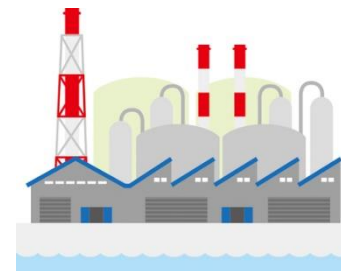
弥生～江戸時代

工業社会 (Society 3.0)

明治～昭和

情報社会 (Society 4.0)

平成以降





リライエティ Society 5.0

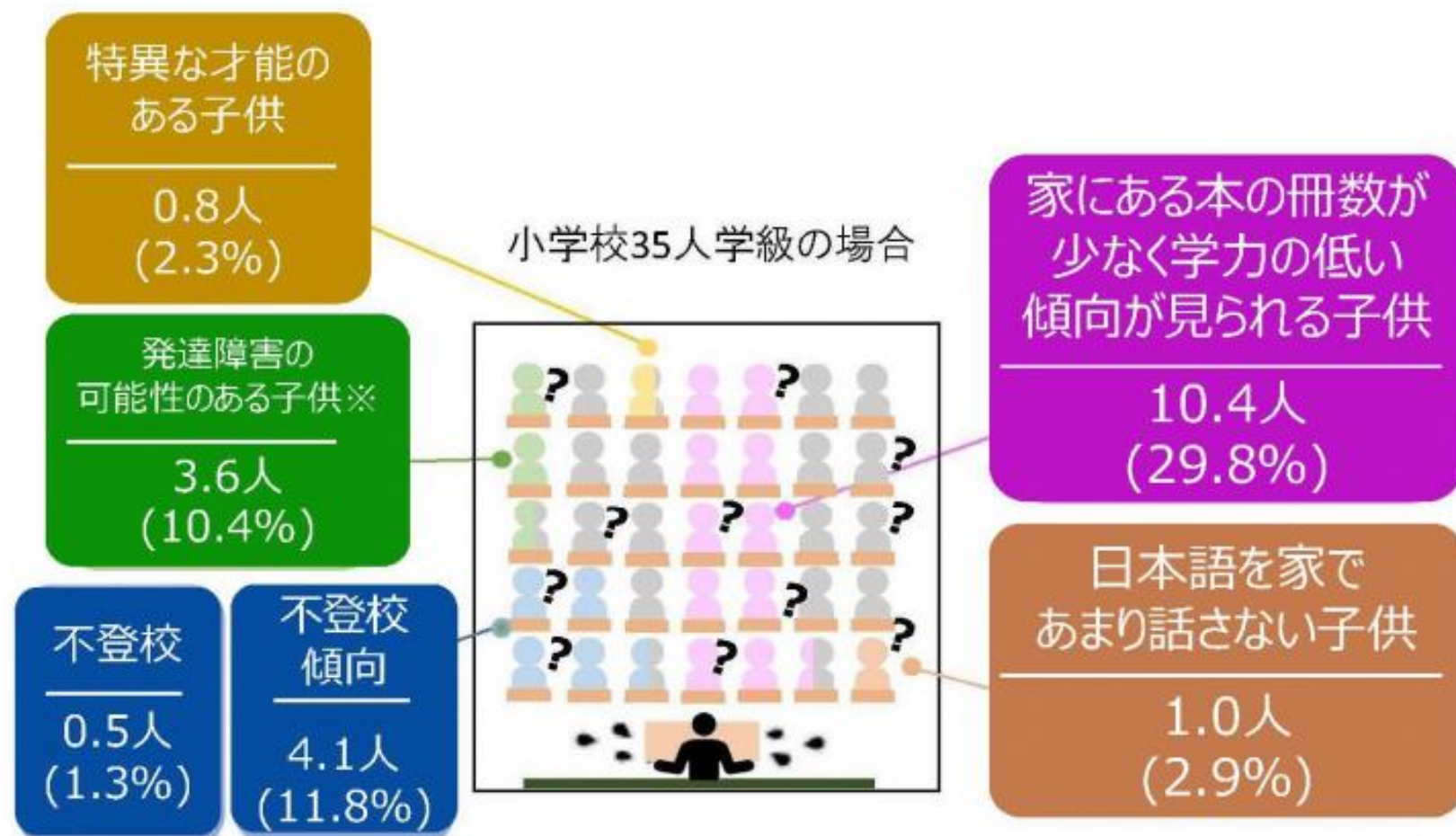
仮想空間と現実空間の高度な融合 一人間中心の社会



仮想空間と現実空間の高度な融合。社会のあらゆるところに
デジタル技術。よき作り手、よき使い手を育てる必要。

動物の狩猟を中
農耕社会(Soci
にITの進展によ
では、コンピュー
高度に融合させ
いくことを目指します。(次ページ参照)

参考 現在の学校の状況 多様性の拡大



出典：内閣府 総合科学技術・イノベーション会議『Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ』をベースに更新

発達障害の可能性のある子供：「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査（令和4年12月）」

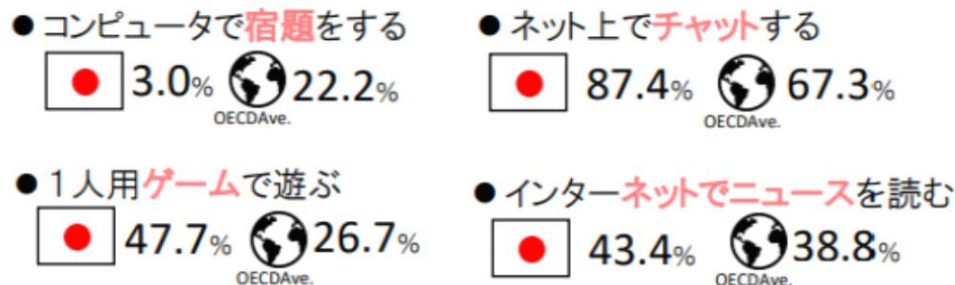
不登校：「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の課題に関する調査」 不登校傾向：日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査（2018年12月）」特異な才能のある子供：日本には定義がないため、IQ130以上を基準とし、知能指数のペルカープの正規分布を元に算出。子供の吹き出しは、文部科学省「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議アンケート」を参考に編集。（内閣府） その他：「令和3年度 全国学力・学習状況調査」

※「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査（令和4年12月）」参照。なお、本結果は、発達障害のある児童生徒の割合等を示すものではなく、発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒の状況を示している。

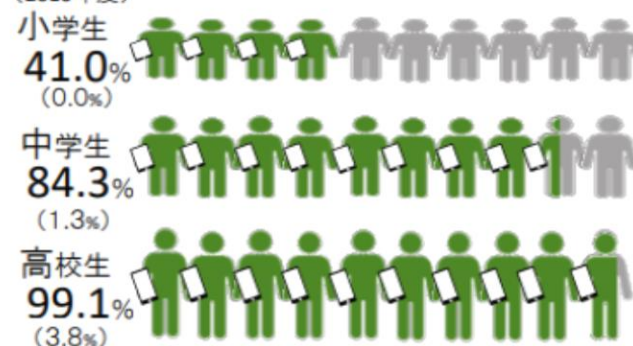
リーディングDX スクール事業事務局キックオフ会議 文部科学省資料

デジタル社会における子供たちを取り巻く環境

学校外での平日にデジタル機器の利用状況(高校1年生)^{※1} 2018年
「毎日」「ほぼ毎日」の合計



2020年度^{※2} (2010年度) 子供専用のスマホ保有率



フィルターバブル現象

アルゴリズムにより、自分の考えや嗜好に合う情報がフィルターを通り抜けて提示されるようになり、**多様性を欠いた自分の好む情報「だけ」に囲まれ、その他の情報から隔離されやすくなる状況。**



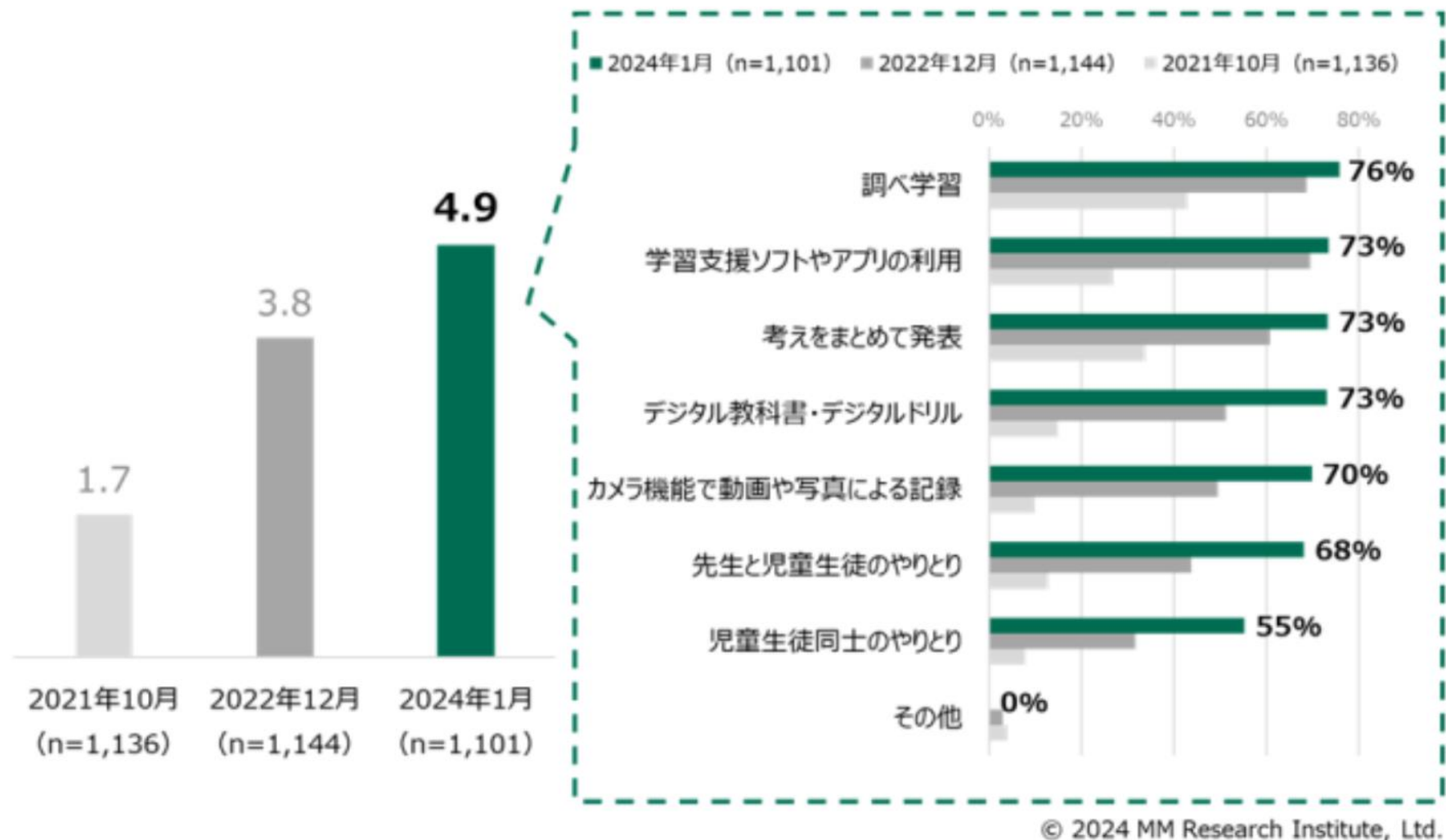
学校外でも同調圧力

日本の子供のチャット利用率は非常に高く、昼夜問わず、グループでのやりとりやメッセージの既読確認ができる環境は、**学校外にいても、同調圧力・ヒエラルキーが生じやすい状況。**



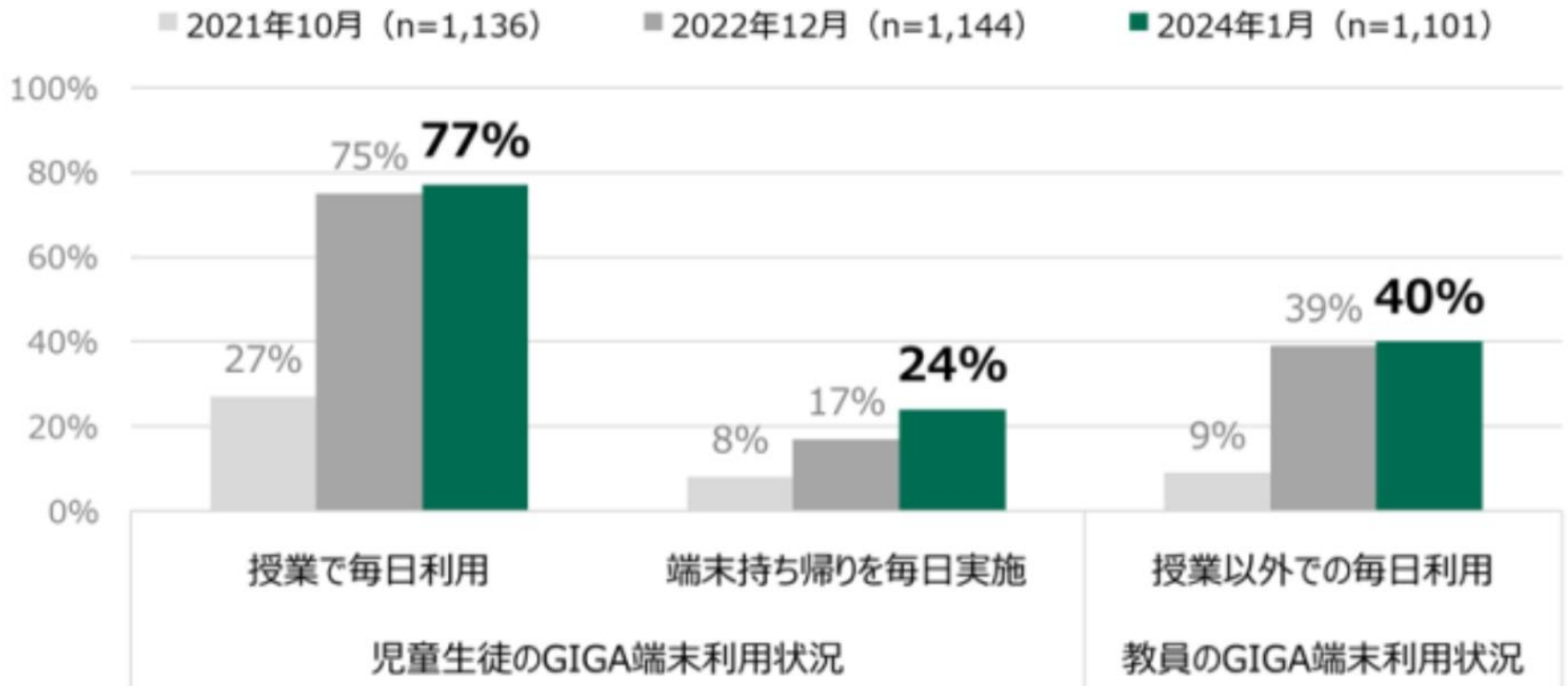
Society 5.0の実現に向けた 教育・人材育成に関する政策パッケージ (案) 2022
<https://www8.cao.go.jp/cstp/siryo/haihui061/siryo3-3-1.pdf>

【データ2】 GIGAスクール端末の授業での平均用途数（左）と自治体数ベースの用途別利用率（右）



「小中学校におけるGIGAスクール端末の利活用動向調査」（2024年1月時点）より
<https://www.m2ri.jp/release/detail.html?id=614>

GIGAスクール端末を毎日利用している自治体の割合



© 2024 MM Research Institute, Ltd.

タブレット、AIを利用した 効果的な教育方法について

(1) 子どもたちを取り巻く環境

(2) これからの時代に必要な力とは

(3) 矢板市立小中学校の現在

(4) 矢板市のこれから



参考 人生100年時代の働き方の予測



従来

3ステージ制
(教育・勤労・引退)



今後

マルチステージ制
(仕事から教育への再移行)



リーディングDX スクール事業事務局キックオフ会議 文部科学省資料

働き手として求められる資質・能力の予測

2015年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14
責任感・まじめさ	1.13
信頼感・誠実さ	1.12
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11
スピード	1.10
柔軟性	1.10
社会常識・マナー	1.10
粘り強さ	1.09
基盤スキル※	1.09
意欲積極性	1.09
⋮	⋮

※基盤スキル：広く様々なことを、正確に、早くできるスキル

2050年	
問題発見力	1.52
的確な予測	1.25
革新性※	1.19
的確な決定	1.12
情報収集	1.11
客観視	1.11
コンピュータスキル	1.09
言語スキル：口頭	1.08
科学・技術	1.07
柔軟性	1.07
⋮	⋮

※革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

（備考）各職種で求められるスキル・能力の需要度を表す係数は、56項目の平均が1.0、標準偏差が0.1になるように調整している。

（出所）経済産業省「第5回未来人材会議」（令和4年4月22日）資料より作成。2015年は労働政策研究・研修機構「職務構造に関する研究」、2050年は同研究に加えて、World Economic Forum “The future of jobs report 2020”, Hasan Bakhshii et al., “The future of skills: Employment in 2030”等を基に、能力等の需要の伸びを推計。

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

主体的・対話的で深い学び

学習指導要領 総則 第3 教育課程の実施と学習評価

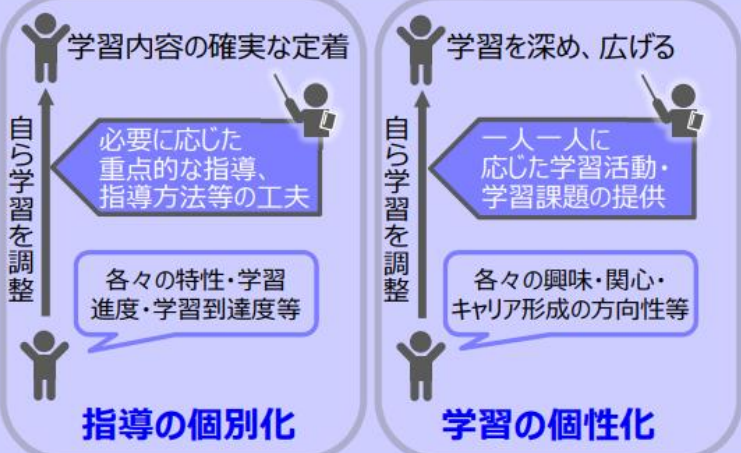
学習指導要領 総則 第4 児童(生徒)の発達への支援

授業改善

一体的に
充実

授業外の
学習の改善

資質・能力の育成



個別最適な学び (教師視点では「個に応じた指導」)

修得主義 ・個々人の学習状況に応じて学習内容を提供 ・一定の期間における個々人の学習の状況・成果を重視

の考え方を生かす

・集団に対して共通に教育を行う ・一定の期間の中で個々人の多様な成長を包含

履修主義

の考え方を生かす

異なる考え方が組み合わせり
よりよい学びを生み出す



協働的な学び

クラスメート



異学年・他校の子供



地域の人



専門家



等

これからの学校には……一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

平成29,30年改訂
学習指導要領 前文

※本資料は、「教育課程部会における審議のまとめ」(令和3年1月25日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会)に基づき、概念を簡略化し図等として整理したものである。

これからの子どもたちに必要な力は？

子供たちには、現在と未来に向けて、
自らの人生をどのように拓いていく
ことが求められているか。

新しい時代を生きる子供たちに、
学校教育は何を準備すべきか。

将来の変化を予測する
ことが困難な時代



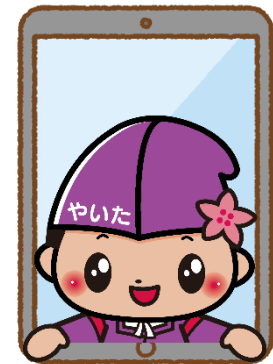
情報活用能力についての指導力 先生に求められることは

- A 教材研究・指導の準備・評価・校務
などに ICT を活用する能力
- B 授業に ICT を活用して指導する能力
- C 児童生徒の ICT 活用を指導する能力
- D 情報活用の基盤となる知識や態度に
ついて指導する能力



タブレット、AIを利用した 効果的な教育方法について

- (1) 子どもたちを取り巻く環境
- (2) これからの時代に必要な力とは
- (3) 矢板市立小中学校の現在
- (4) 矢板市のこれから



自ら学ぶ力を育てる

【矢板市学校教育の指標】



ギガ じつげん
矢板市GIGAスクールの実現へ ~1人1台タブレット端末がもたらす学びの変容~

矢板市・矢板市教育委員会

「未来社会を切り拓くための資質・能力」を育成

○生きて働く知識・技能 ○未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力など ○学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性など

家庭教育

・タブレット端末の持ち帰りによる
デジタル教材での家庭学習



Google
Gsuite

タブレット端末の持ち帰り

モバイルWi-Fiルーターの貸出サービス

・臨時休業時のオンライン授業
(1人1アカウント)



デジタル学校図書館

・中学3年対象 オンライン入試対策
(NPO法人との連携)

学校教育



・誰もがイメージしやすい教材提示
・1人1人の反応や考えを即時に把握
しながら双方向的に授業を進める



・デジタル教材を活用し、1人1人の
教育的ニーズや学習状況に応じ
た個別学習が可能になる



・各自の考えを即時に
共有し、多様な意見にも
即時に触れられる

Google
Gsuite



・プログラミング学習
シュミレーションが容易になる



・写真、音声、動画を
用いた多様な資料・
作品の制作



・インターネットを用いた情報
収集、写真や動画による記録

遠隔教育

・他の学校との交流
・他の学校への授業参加



・家庭教育学級 (web会議)
・大学・海外・専門家のとの連携

SINET 大量情報網

Edtech 民間教育サービスの活用

児童生徒1人1台タブレット端末

教職員1人1台タブレット端末

学習活動ソフト

デジタル教科書

高速大容量の校内通信ネットワーク (無線LAN整備率100%、高速10Gbps)

タブレット端末充電保管庫

ティザー教科書

情報モラル講演会

プログラミング学習教材

大型電子黒板

矢板市ICT支援員

学校支援ボランティア

GIGAはGlobal and Innovation Gateway for ALL の略



1人1台学習者用タブレット端末の配備・活用

【学習活動端末支援Webシステム】「SKYMENU Cloud」

・主体的・対話的で深い学び

【Google Workspace】「ドキュメント・スライド・クラスルームなど」

・授業での活用 課題の配布・回収 ・オンライン家庭学習支援

【AI型ドリル】「JUSTスマイルネクスト」「e-ライブラリー」

・個別学習、授業や朝の学習などでの活用

・家庭学習での活用

【学校電子図書館】…愛称「ともなりライブラリー」

・読書の時間、家庭学習での活用、授業での調べ学習

【まなびポケット】

…「メクビット（学調など）・QUテスト」



スカイメニュークラウド 発表ノート

トウモロコシ

の観察

11月25日(金) 晴れ

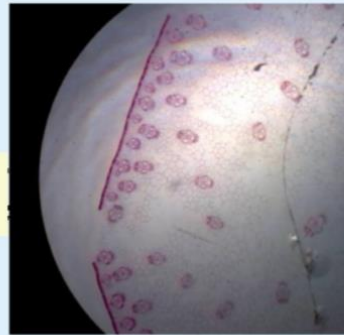
気づいたことなど

茎の横断面を見ると
維管束が散らばっている。

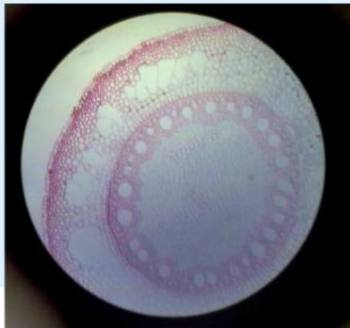
茎の縦断面を見ると
太く染まっているところがある。

根の横断面を見ると
輪のように染まっている。

← 茎縦断 (100倍)



茎横断 (40倍) →



← 根横断 (100倍)

対象・目標・思考を可視化することで対話が促進
情報共有の範囲をコントロールできる→グループでクラスで学年で
○ 共有の範囲が異なることで、伝達方法も変わる

グループワーク 1枚をみんなでまとめる

① 写真や文字を追加すると…



② グループ全員のタブレット端末に反映



教員がグループに参加すれば、
進捗の確認や
操作を支援できます



全員で同時に編集

グループワーク ページの分担

複数ページのノートの場合、ページごとに担当を決めて作成します。担当以外のページの作業状況が反映されるので前後のページを確認でき、つながりを意識しながら取り組みます。

1ページ目

アメリカ合衆国の基本情報

- 面積 約963万km²
- 人口 約3億1300万人
- 主な言語 英語
- 首都 ワシントンD.C.

2ページ目

～アメリカで生まれたもの～

- バスケットボール
- アメリカンフットボール
- 野球
- ジーンズ
- チーマパーク
- ハンバーガー

3ページ目

～日本がアメリカから輸入しているもの～

- トウモロコシ、小麦、大豆、組立機、肉類

ほかの人の作業状況がわかり、
タップするとページが表示されます

Google スプレッドシートの利用

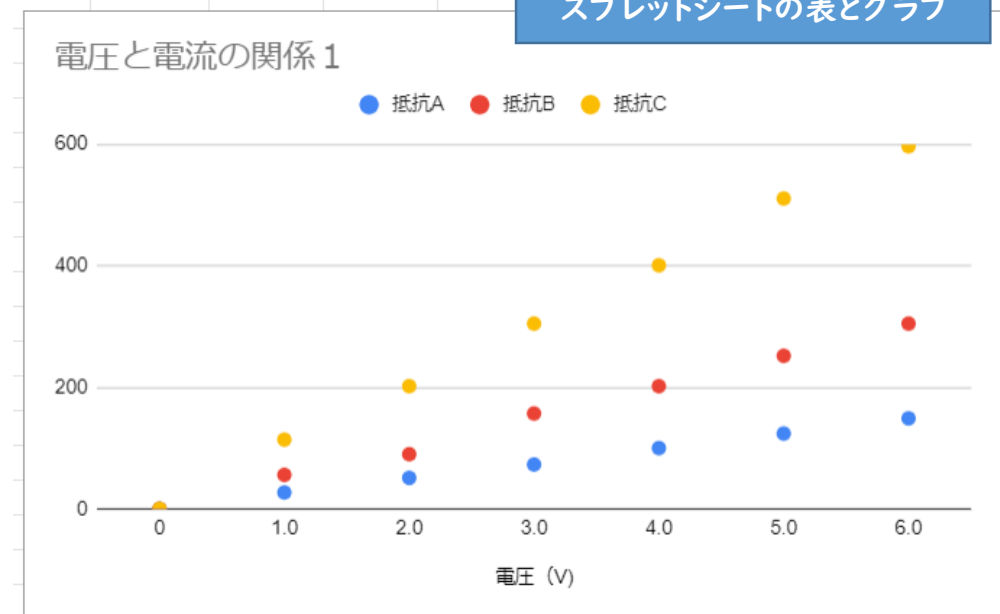
例 電流・電圧・抵抗の関係性を調べる実験

各班で集めたデータを
グラフ化、比較・検討
他の班のデータも参考
にできる

- ・ データや思考の
即時共有・可視化
- ・ 時間短縮
- ・ 共同調整学習

電圧を変化させたときの電流を記入しよう								
電圧 (V)		0	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0
電流 (mA)	抵抗A	0	27	51	73	100	124	149
	抵抗B	0	56	90	157	202	252	305
	抵抗C	0	114	202	305	401	511	597

スプレッドシートの表とグラフ



1人1台学習者用タブレット端末の再配備

各学校への配備は夏休みを予定 → 児童・生徒へ

【学習活動端末支援Webシステム】

「SKYMENU Cloud」 → 現在検討中

学校の先生と教育委員会事務局とで各社を比較し、決定

【Google Workspace】

「ドキュメント・スライド・クラスルームなどは引き続き利用」

【AI型ドリル】「JUSTスマイルネクスト」「e-ライブラリー」

→ 現在検討中

【学校電子図書館】「ともなりライブラリー」

【まなびポケット】

「メクビット(学調などCBTのテスト)

・QUテスト」

回線は引き続きよくしていきます



タブレット、AIを利用した 効果的な教育方法について

- (1) 子どもたちを取り巻く環境
- (2) これからの時代に必要な力とは
- (3) 矢板市立小中学校の現在
- (4) 矢板市のこれから



多くの先生や学校のもつ課題

クラウド（端末）とノートの使い分け

デジタルとアナログの効果的な利用に向けて

- ・ **ノート**は時系列に並んでいるが、**情報量は少ない**。
- ・ **クラウド**は長期に情報を保存できるが、**散在しがち**。
- ・ ハイブリット化して**理想的な利用方法**への模索

具体物の操作と端末内の操作の使い分け

- ・ 体を使うことで、**感覚運動情報**が付随した豊かな理解へ
- ・ 端末はそれらを**パッケージ化・保存**ができる。

働き方改革に寄与しているか？

- ・ 使うことに注力 → 慣れたら**業務改善**
- ・ **ICT環境を改善** → より良い教育へ

主体的・対話的で深い学びに向けて

個別最適な学び

- ・指導の個別化 → AIドリルなどの活用
- ・学習の個性化 → ICTを利用し自由進度学習へ

協働的な学び

- ・学習支援ソフトを利用した、効果的な活用の研究

授業力向上

- ・大学との連携、企業との連携

教育データの利活用

- ・膨大なデータをAIが判断し、学習への利用を進める
→ 心の健康観察・学力・利用時間

協議

タブレット、AIを利用した
効果的な教育方法について



本日の内容

日時：令和6年12月16日（月）16時～17時

場所：生涯学習館 研修室1

参加者：市長・教育長・教育委員

総合政策課・教育総務課・生涯学習課

議題の順序：

(1) タブレット、AIを利用した効果的な教育方法について

(2) 部活動の地域移行について

部活動の地域移行について



矢板市総合教育会議
生涯学習館 研修室！

部活動の地域移行について

- (1) 部活動の地域移行とは
- (2) 矢板市の取り組み
- (3) 地域クラブ活動と部活動の違い
- (4) 矢板市のこれから



(1) 部活動の地域移行とは

部活動を地域へ移行するのは

学校部活動は、生徒の自主的な活動として、体力や技能の向上だけでなく、好ましい人間関係作りや自己肯定感、責任感をはぐくむなど、**多様な学びの場**として意義のある活動です。



しかし・・・

生徒数の減少、生徒のニーズに多様化、教員の働き方改革など、今までと同様の体制で運営することは困難な状況となってきました

地域クラブ活動で期待されること

専門性の高い指導・初心者でも基礎から効果的に学ぶことができる

地域の指導者・他校の生徒との交流から社会性の育成

教員の部活動に係る負担が減る
→学校教育への良い効果の期待

今後の方向性を様々な
視点で検討中



令和5年3月・栃木県教育委員会

とちぎ部活動移行プラン

【基本目標】

生徒が主体的に多様なスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境づくりに取り組みます。

【活動目標】

令和7(2025)年度までに、全ての公立中学校の休日の部活動を1つ以上、地域クラブ活動にすることを目指します。

令和6年矢板市は6部活動を
地域クラブ化している

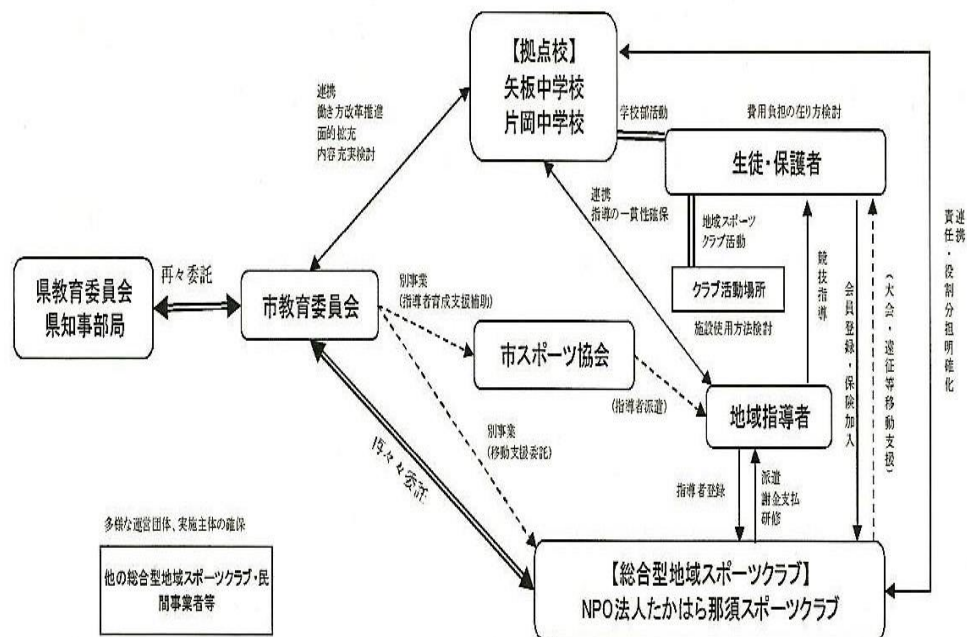


部活動の地域移行について

- (1) 部活動の地域移行とは
- (2) 矢板市の取り組み
- (3) 地域クラブ活動と部活動の違い
- (4) 矢板市のこれから

2 矢板市の取り組み

拠点校名	矢板市立矢板中学校 矢板市立片岡中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	6部活
地域クラブ活動で実施した種目	弓道、サッカー（2校） 男子バスケットボール ソフトテニス、卓球
運営主体名	たかはら那須スポーツクラブ
運営類型	総合型地域スポーツクラブ運営型
1か月あたりの平均的な活動回数	月4回程度
指導者の主な属性	平日は部活動指導員、休日はクラブ指導員 教員の兼職兼業
活動場所	矢板市立矢板中学校・ 矢板市立片岡中学校 矢板市の施設（武道場、弓道場）
主な移動手段	自転車、徒歩
1人あたりの参加会費等	徴収なし
1人あたりの保険料	徴収なし



2 矢板市の取り組み

令和5年度地域クラブ活動実証事業からわかったこと

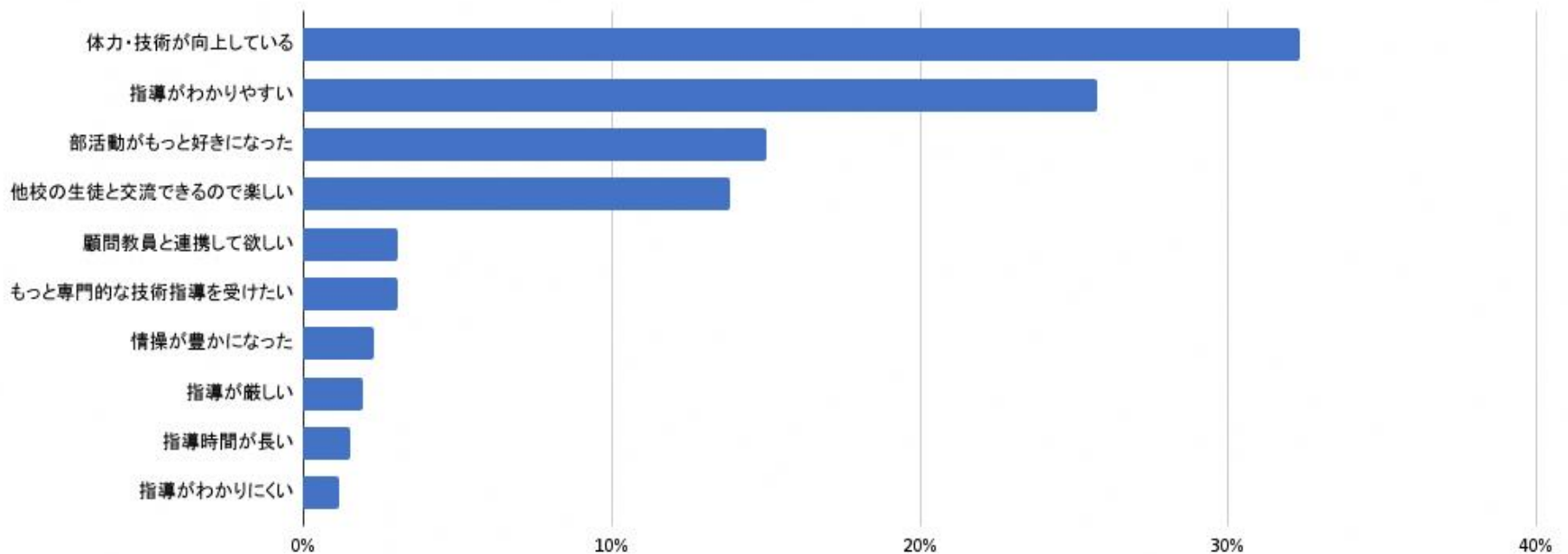
昨年度までの実証事業とアンケート調査



休日の地域クラブ活動に関するアンケート

地域クラブ活動を実践しての成果（生徒）

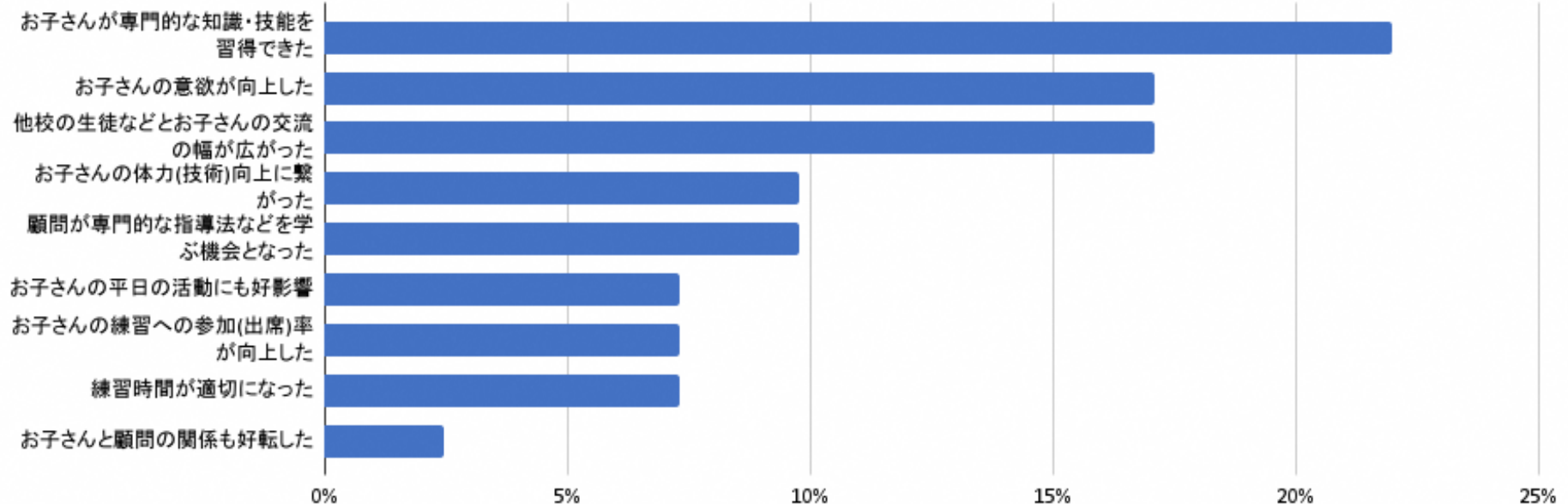
地域クラブ活動に参加してどのように感じていますか(生徒)



休日の地域クラブ活動に関するアンケート

地域クラブ活動を実践しての成果（保護者）

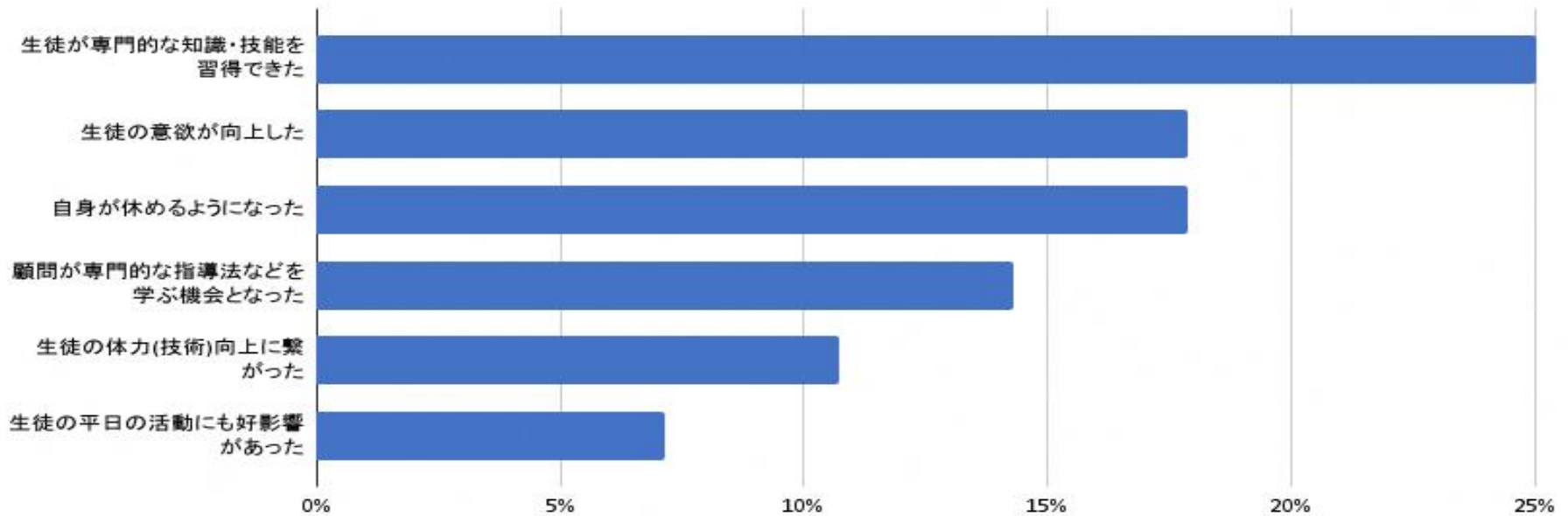
休日の地域クラブ活動に参加して良かった点は何ですか(保護者)



休日の地域クラブ活動に関するアンケート

地域クラブ活動を実践しての成果（教員）

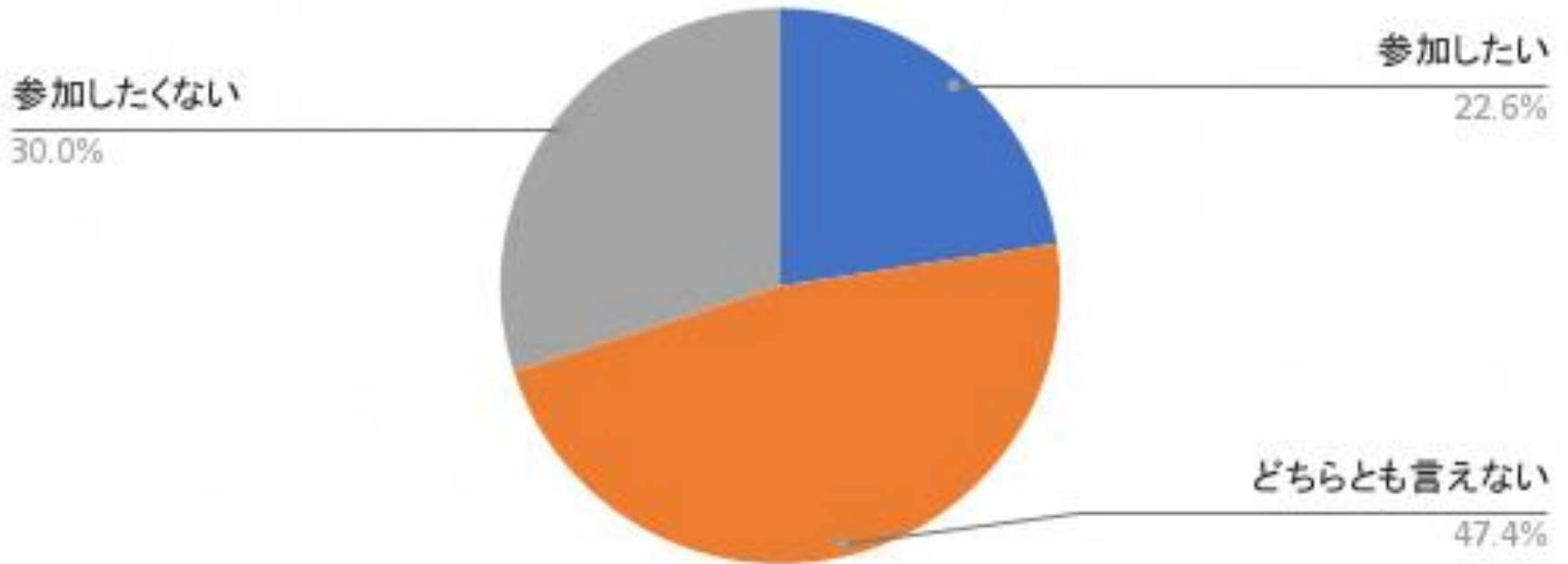
休日の地域クラブ活動を実践して良かった点は何ですか(教員)



休日の地域クラブ活動に関するアンケート

部活動の地域移行について（生徒）

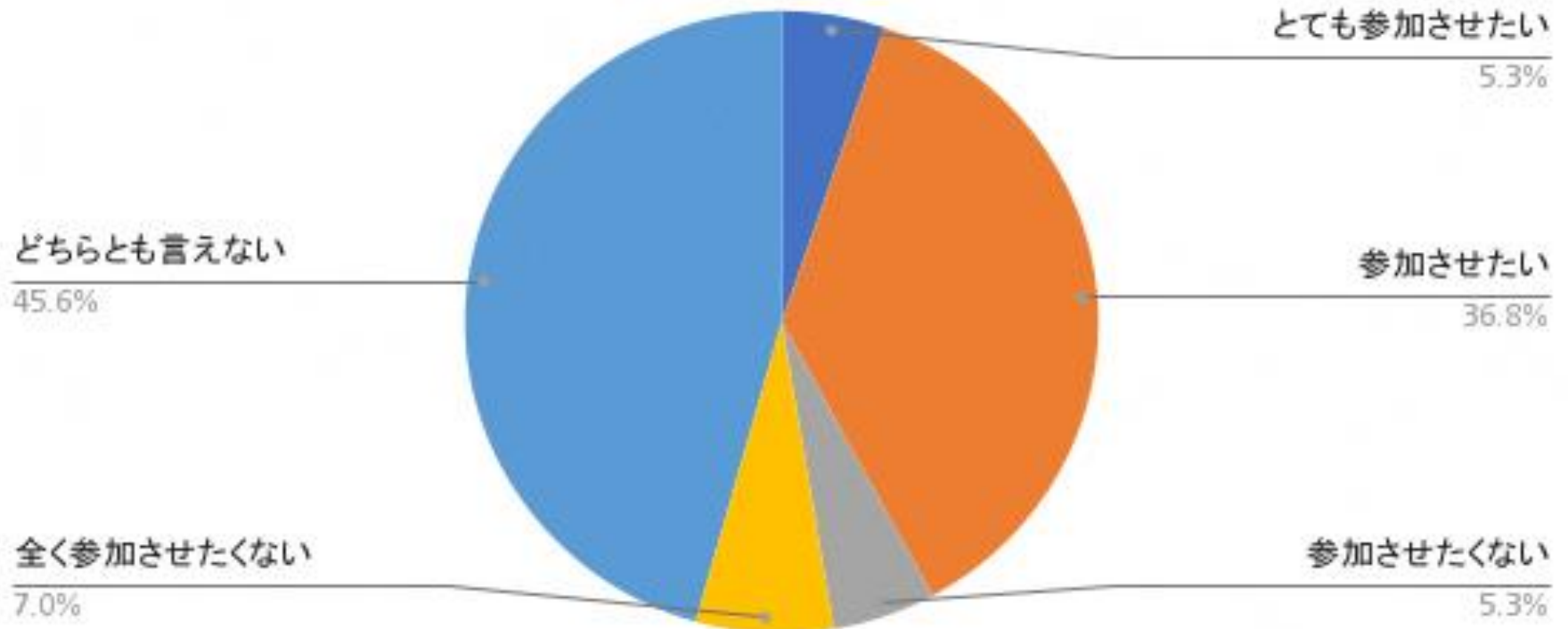
休日の地域クラブ活動に参加するために月謝を支払うことになったらどのように思いますか(生徒)



休日の地域クラブ活動に関するアンケート

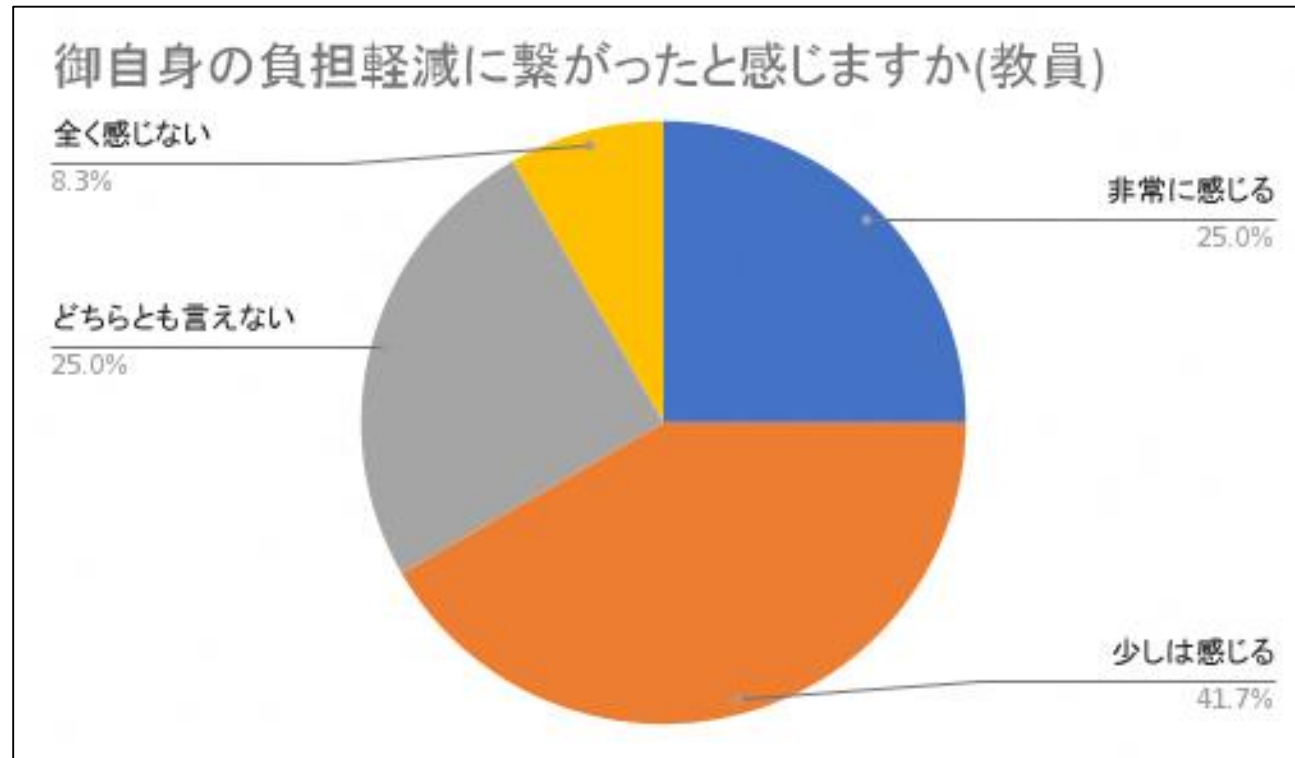
部活動の地域移行について（保護者）

地域クラブ活動に参加する際に保護者負担があっても参加させたいですか(保護者)



休日の地域クラブ活動に関するアンケート

地域クラブ活動を実践しての成果（教員）



実践研究での検証から得た**成果**

- ・専門的な技術指導による**生徒の意欲**や**技術の向上**を図ることができた。
- ・**教員の負担軽減**を図ることにつながった。



実践研究での検証での課題

・指導者の確保

運営団体だけで指導者を確保するべきであるが現状は難しい。また、指導者を確保できたとしても今後継続して指導が続けられるとは限らない（指導者の高齢化、人材不足）

・安全安心な活動の場

安全管理、体罰やハラスメントなどは決しておこさない指導者等、教員なしで地域指導者のみでできるのか。

・「平日の学校部活動」と「休日の地域クラブ活動」との連携

練習内容、活動時間、指導方針

・地域指導者の負担

技術指導以外の業務（出欠確認、生徒指導、大会への引率、事故対応等）がかなり負担である。

・保護者負担（参加費、送迎）

地域クラブになった種目の保護者（市町）だけが参加費を負担するのはおかしい

・適切な活動時間の設定

成長期にある生徒の健康やバランスのとれた生活を送ることができるための活動日、活動時間の設定

・生徒数減

生徒数の減少により市町単位では人数が確保できなくなる種目がある。（ソフトボール、剣道）

令和6年度矢板市地域クラブ活動実証事業

1 実証研究期間

令和6年5月1日～令和7年1月31日

2 主な活動場所

- ・矢板市立矢板中学校
- ・矢板市立片岡中学校

3 運営団体

たかはら那須スポーツクラブ



部活動の地域移行について

- (1) 部活動の地域移行とは
- (2) 矢板市の取り組み
- (3) 地域クラブ活動と部活動の違い
- (4) 矢板市のこれから



3 学校部活動と地域クラブ活動の違い

	学校部活動	地域クラブ活動
位置付け	学校教育の一環 (教育課程外)	学校と連携して行う地域クラブ活動 (法律上は社会教育、スポーツ・文化芸術)
運営主体	学校	総合型地域スポーツクラブ、民間事業者等
対象	当該校の生徒	地域の生徒
指導者	学校教員、部活動指導員	地域の指導者
活動日 活動時間	部活動の指針を遵守	部活動の指針を遵守
費用	部活動運営費、保護者会費等	受益者負担 (会費+施設使用料+用具+交通費+保険料等)
責任	学校	運営団体
雨天時等の 中止判断	教員が判断→部員へ連絡	指導者が判断→参加者
怪我等 事故対応	教員→学校管理職→保護者	指導者→クラブ→保護者
指導者報酬	休日の学校部活動は特殊業務手当	運営主体が報酬額を設定

3 学校部活動と地域クラブ活動の違い

	学校部活動	地域クラブ活動
位置付け	学校教育の一環 (教育課程外)	令和6年度は 実証事業のため、県から 委託を受け、費用の補助 を受けている 残りは市が負担
運営主体	学校	
対象	当該校の生徒	
指導者	学校教員、部活動指導員	
活動日 活動時間	部活動の指針を遵守	
費用	部活動運営費、保護者会費等	受益者負担 (会費+施設使用料+用具+交通費+保険料等)

高い専門性を有する指導者確保につながる持続可能な仕組みを構築することや、生徒が安心してスポーツ活動に取り組む環境をつくるために、活動・運営に係る費用が発生します。そのため、受益者による負担を原則にしたいと思いますが、今後は、費用がかかるようになる可能性があります。

令和6年度矢板市地域クラブ活動実証事業

平日は学校部活動

休日は地域クラブ活動

	月	火	水	木	金	土	日
形態	学校部活動 (学校教育活動)					地域クラブ活動 (社会教育)	
指導者	矢板市部活動指導員として (学校教員+矢板市部活動指導員)					地域指導者として 地域指導者(たかはら那須スポーツクラブ) ※学校教員は勤務外	
指導時間	2時間	2時間		2時間	2時間	3時間	
報酬	時給1,400円					時給1,400円 ※5月～2月	
責任の所在	学校					たかはら那須スポーツクラブ	
雨天時や 災害時等の 中止判断	教員が判断→部員へ連絡					指導者が判断→参加者	
怪我等 事故対応	教員→学校管理職→保護者					指導者→クラブ→保護者	
備考						大会参加等で土日両日活動する場合は、 他の土日と振り替える。	

令和6年度矢板市地域クラブ活動実証事業

地域クラブ活動の運営

- ・運営団体は、**地域クラブ指導員**（以降、指導員）の指導による**クラブ活動を運営**する。
- ・運営団体は、各種目のクラブ活動について、各中学校の学校部活動と運営方針や指導内容等について連携を図りながら、**学校部活動及び地域クラブ活動のガイドラインを遵守**した運営を行う。
- ・参加者は、矢板市立中学校に在籍し、対象となる種目の学校部活動に所属する生徒のうち、保護者の承認を得て**参加を申請した者**とする。



令和6年度矢板市地域クラブ活動実証事業

地域クラブ活動の活動日

1 週休日…土曜日及び日曜日どちらか1日3時間まで

※大会参加等で土日両日活動する場合は、他の土日と振り替える。

2 休日…1日3時間まで

3 以下の日は活動をしない。

- ・学校の定期テスト期間中 ※定期テスト3日前から
- ・学校閉庁日
- ・熱中症警戒アラート(WBGT指数が31℃以上の場合)が発表された場合
- ・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染拡大を防ぐために学校長が学校部活動を中止としている期間
- ・その他、学校長から活動を停止するよう要請のあった日

※「矢板市立中学校に係る運動部活動の方針」

適切な休養日の設定を遵守した活動日の設定

令和6年度矢板市地域クラブ活動実証事業

指導員の身分

たかはら那須スポーツクラブの会員

→部活動指導員と兼任

※教員は兼職兼業

指導員の職務

指導員は、主に技術的な指導に従事することとし、次の職務は、運営団体及び学校と連携を図りながら行う。

- ・実技指導
 - ・安全および障害の予防に関する知識および技能の指導
 - ・学校外での活動（大会・練習試合等）の引率
 - ・用具および施設の点検および管理
 - ・保護者等への連絡
 - ・年間および月間の指導計画の作成
 - ・生徒指導に係る対応
 - ・事故が発生した場合の現場対応
 - ・その他、教育長又は運営団体が必要と認める職務
- ※学校は、学校部活動と地域クラブ活動との連携を図る。

部活動の地域移行について

- (1) 部活動の地域移行とは
- (2) 矢板市の取り組み
- (3) 地域クラブ活動と部活動の違い
- (4) 矢板市のこれから



部活動の地域連携や地域スポーツ・文化クラブ活動移行に向けた環境の一体的な整備

令和7年度要求・要望額
(前年度予算額)

69億円
32億円)



方向性・目指す姿

- ✓ 地域の実情に応じた持続可能で多様なスポーツ・文化芸術環境を整備し、多様な体験機会を確保。
- ✓ 少子化の中でも、将来にわたり我が国の子供たちがスポーツ・文化芸術に継続して親しむことができる機会を確保。学校の働き方改革を推進し、学校教育の質も向上。
- ✓ 自己実現、活力ある社会と絆の強い社会創り。部活動の意義の継承・発展、新しい価値の創出。
- ✓ 子供や大人、高齢者や障害者の参加・交流を推進する地域スポーツ・文化芸術活動の中に部活動を取り込む。ウェルビーイングの実現、まちづくりの推進。
- ✓ 「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、地域の実情に応じたスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消。

事業内容

I. 地域クラブ活動への移行に向けた実証

46億円(12億円)

委託・協賛

各都道府県・市区町村の地域スポーツ・文化芸術活動の推進体制等の下で、**コーディネーターの配置を含む運営団体・実施主体等の体制整備、指導者の確保、参加費用負担への支援**に関する実証事業を実施し、国において事業成果の普及に努めるとともに、全国的な取組を加速する。

(1) 地域クラブ活動への移行に向けた実証 ※取組例

体制整備

- 関係団体・市区町村等との連絡調整
- コーディネーターの配置、地域学校協働活動推進員等との連携の在り方
- 運営団体・実施主体の体制整備や質の確保

指導者の質の保障・量の確保

- 人材の発掘・マッチング・配置
- 研修、資格取得促進
- 平日・休日の一貫指導
- ICTの有効活用

関係団体・分野との連携強化

- スポーツ協会、競技団体、文化芸術団体、大学、企業等
- スポーツ推進委員、地域おこし協力隊
- まちづくり・地域公共交通

面的・広域的な取組

- 地域クラブ活動の拡大
- 市区町村等を越えた取組

内容の充実

- 複数種目、シーズン制
- 体験型キャンプ
- レクリエーション活動

参加費用負担支援等

- 困窮世帯の支援
- 費用負担の在り方

学校施設の活用等

- 効果的な活用や管理方法

※ 実証事業2年目、3年目となる地域クラブ活動は、原則、国費だけではなく、一定の割合の受益者負担や行政・関係団体の自主財源からの支出、企業等からの寄付などの組み合わせにより、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築し、検証。
※ 平日・休日の一貫指導や市区町村を越えた取組など、地域の実情に応じた最適化・体験格差の解消を図る意図的な取組を推進。

★ 重点地域における政策課題への対応

地域スポーツ・文化芸術環境の整備に先導的に取り組む地域を**重点地域**として指定し、**政策課題への対応を推進**する。

- ＜主な政策課題＞
- 多様なスポーツ・文化芸術体験の機会の提供(マルチスポーツ環境等の整備)
 - 高校との連携やジュニアからシニアまでの多世代での取組
 - スクールバスの活用や地域公共交通との連携
 - 不登校や障害のある子供たちの地域の学びの場としての役割
 - トレーナーの活用を含めた安全確保の体制づくり
 - 企業版ふるさと納税等を含む民間資金の活用
 - 持続的・安定的な運営を担うマネジメント人材の育成
 - 体育・スポーツ・文化芸術系の大学生、パラアスリート等を含むアスリート・アーティスト人材等の活用
 - 学校体育・教育施設の拠点化や社会体育・教育施設との一体化などによる地域スポーツ・文化芸術の活動拠点づくり
 - 動画コンテンツ等の活用
 - 多様なニーズに対応した大会の開催
 - 運営の効率化のためのシステム整備 等

(2) 課題の整理・解決策の具体化、地域クラブ活動のモデル構築・プロセス明確化、整備促進等

- 事業成果の普及方策、地域クラブ活動の整備の進展に伴う新たな課題の整理・解決策の具体化
- 地域クラブ活動のモデルの構築・プロセスの明確化、持続的・安定的な運営に向けた仕組みづくり
- 複数自治体が連携した地域クラブ活動の整備促進方策の展開、全国的な取組の推進 等

※1 補助割合について、都道府県又は指定都市の場合は、国1/3、都道府県・指定都市2/3。

※2 コミュニティ・スクール(学校運営協議会)等の仕組みも活用。

II. 中学校における部活動指導員の配置支援

20億円(18億円)

補助・拡充

各学校や拠点校に部活動指導員を配置し、教師に代わる指導や大会引率を担うことにより、生徒のニーズを踏まえた充実した活動とする。(補助割合：国1/3、都道府県1/3、市区町村1/3) ※1

→ **部活動指導員の配置を充実** [17,500人(運動部：14,000人、文化部：3,500人)]

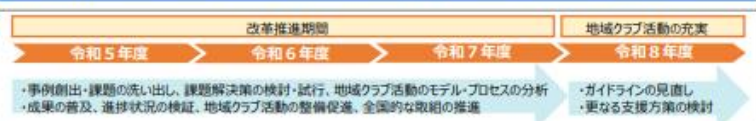
III. 地域における新たなスポーツ環境の構築等

3億円(3億円)

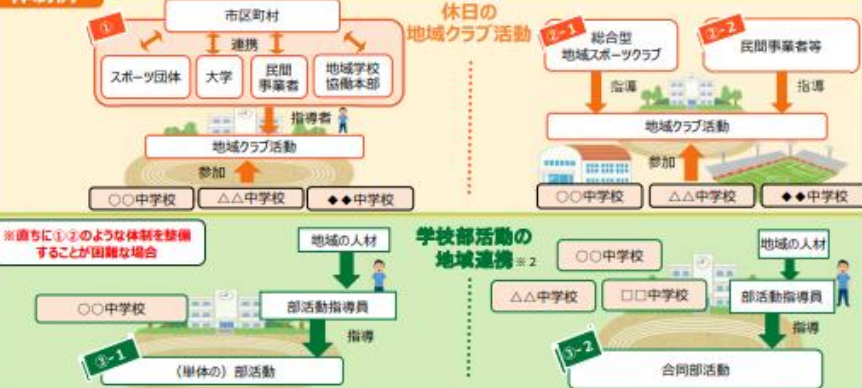
補助・委託

- 上記の施策を支える**新たなスポーツ環境の構築等**のため、以下の取組を実施。
- 公立中学校の**施設の整備・改修を支援**(用具保管の倉庫設置、スマートロック設置に伴う扉の改修等)
 - 指導者養成**のための講習会や**暴力等の根絶**に向けた啓発活動の実施等。
 - 大学生が卒業後も継続的に**地域の中学生の**指導に当たる仕組みを構築**。
 - 子供たちの多様なスポーツ機会創出(マルチスポーツ)**、**デジタル動画によるサポート体制整備**。

方向性



体制例



※ 本資料における「スポーツ」には障害者スポーツを、「文化芸術」には、障害者芸術を、「中学校」には特別支援学校中学校部等を含む。体制例は、あくまでも一例である

(担当：スポーツ庁地域スポーツ課、文化庁参事官(芸術文化担当) 付)

今年度の実証事業の取り組みと 今までの課題の改善に向けて

I 事業拡大として

①種目数の拡大

→昨年よりも地域クラブを選択した部活数は減少

原因：指導者の不足・安全面や保険の登録

地域クラブ指導員と部活動指導員

教員や地域への周知・
理解の機会を作る

スポーツ協会と地域
クラブ指導者の連携
指導者の質の確保・
サービス等の研修

②県立学校との連携

→栃木県立矢板東高等学校附属中学校との連携の検討

③市内各スポーツ団体・連盟・協会との連携が可能かどうか検討

→地域指導者の確保・育成

地域に元からあるスポーツ教室等の利用

地域クラブ活動と部活動に関する

コーディネーターの担当者を検討

今年度の実証事業の取り組みと 今までの課題の改善に向けて

2 課題の解決に向けて

①指導者への報酬の財源についての検討

→ **保護者負担**について

(地域クラブ活動に参加している生徒だけに負担を強いるのは問題がある)

地域移行した場合に自走化
でき、保護者負担が大きくな
らないために

②指導者の確保・指導力向上・安全面の改善

→現在、部活動指導員と兼務をしているが、

ほかの種目の指導者を探す、**コーディネーター**をつける。

複数の指導者をつける。**市スポーツ協会との連携**など

部活サポート
コンソーシアムとの連携

③メールシステムの導入や連絡体制の確立

→**アプリやメールシステム**を検討し、

活動内容や欠席等の連絡体制の確立

連絡システムや
指導の改善

④実施場所・活動方法・指導する場所や設備・機会の提供

→矢板中学校・片岡中学校で**拠点校部活**を検討

スクールバス等を利用し、各校への運送支援

矢板市地域クラブ活動実証事業 今後の方向性として

矢板市では、実情に応じて

段階的に平日・休日の部活動

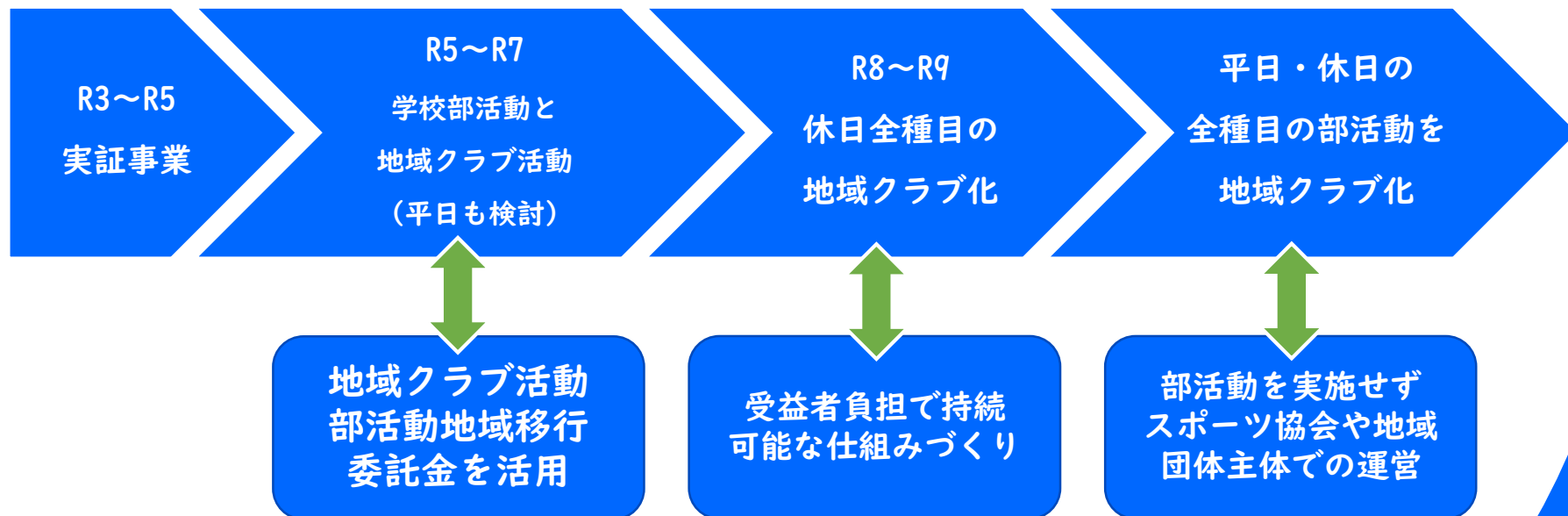
中学校の全部活動（運動・文化）

の地域移行を進めていきます



矢板市地域クラブ活動 今後のスケジュールと目標

部活動の地域移行スケジュールのイメージ



協議

部活動の地域移行について

